

アワ、キビは6月中旬まで移植栽培が可能、株間は15cmがおすすめ

【成果の内容...】

- 1 アワ、キビの移植栽培は栽植密度 10.3 株 / m² (条間 65cm × 株間 15cm) で、安定的に収量を確保できます。また、栽植密度 6.2 株 / m² (条間 65cm × 株間 25cm) でも直播栽培並以上の収量を確保できます (図 1)。
- 2 キビの移植栽培は 6 月中旬の移植でも 9 月上旬に成熟期に達し、水稻刈り取りなど他作目の作業に競合しません。また、アワは 6 月中旬の移植でも 10 月中旬までには成熟期に達します (図 2)。

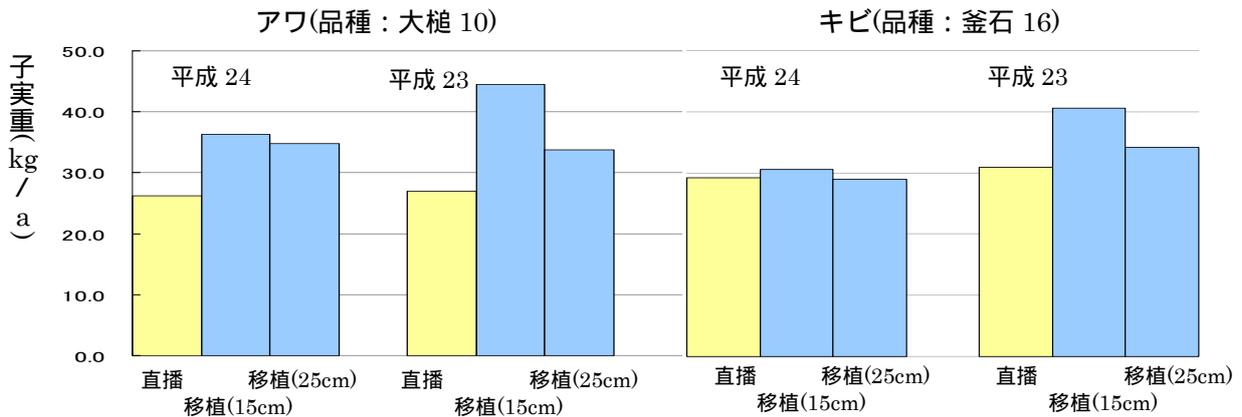


図 1 . 直播栽培と栽植密度の異なる移植栽培の収量比較(アワ、キビ)

畑の施肥量 : N-P₂O₅-K₂O = 3.6-15.0-10.8
 カッコ内は株間を示す。条間 65cm は共通である。

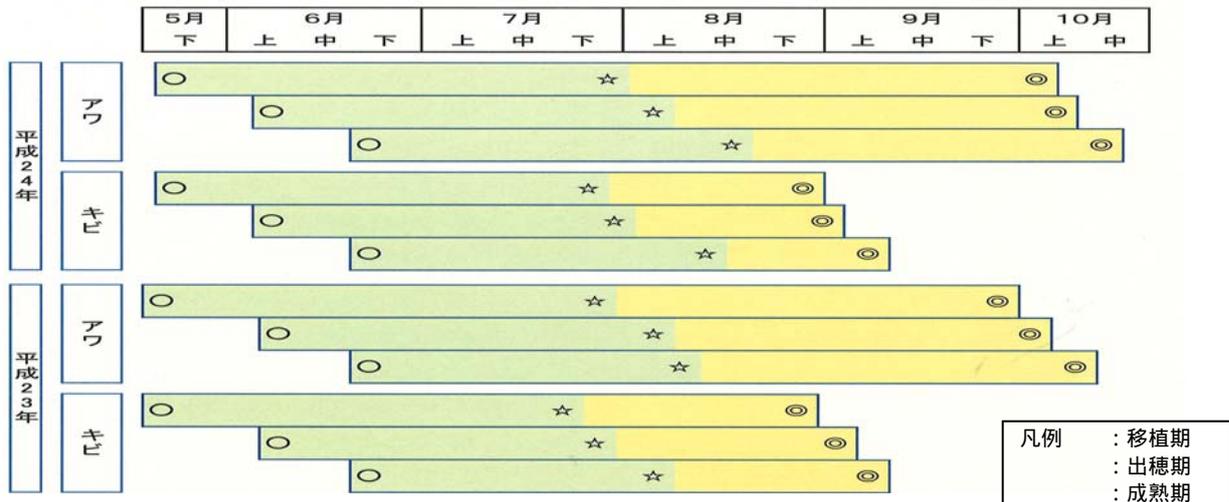


図 2 . アワ、キビの異なる移植時期ごとの生育ステージ(平成 23 年、24 年)

【気をつけておきたいことは...】

- 1 株間 15cm より株間を狭くした場合、倒伏による減収リスクが高まります。
- 2 株間 25cm より株間を広くした場合、穂数減少による減収リスクが高まります。

【期待される効果は...】

- 1 雑穀の単収向上等、生産安定技術として活用されます。